

寒冷地形談話会通信

1994年度 第2号 1994.07.11発行

事務局：〒113 東京都文京区本郷7丁目3-1
東京大学大学院理学系研究科地理学教室内
寒冷地形談話会事務局（担当，青木）
TEL. 03-3812-2111 (EXT. 4580)
FAX. 03-5684-0518 (地理学の事務局)
e-mail. kent@geogr00.geogr.s.u-tokyo.ac.jp

・6月の例会報告

今年度第1回例会を6月18日（土曜日），15:00から明治大学において行いました。若手からベテランの方まで多くの参加者があり、大変盛況でした。また、例会後、場を改めて行われた反省会（??）でも、多くの意見交換が行われ、有意義な会となりました。

「アルゼンチンアンデス，アコンカグア山周辺の氷河地形」

長谷川裕彦（明治大・院）

1994年2月20日から3月25日までの約1ヶ月間，高橋伸幸氏（北海学園大）とともにアルゼンチン・エクアドル両国を旅してきた。その間，約2週間にわたりアンデス山脈の最高峰アコンカグア山周辺に滞在し，登山および氷河地形の観察をおこなった。発表では，Espizua (1993) により明かにされたアコンカグア山周辺の氷河地形発達史を紹介し，次いで登山ルート沿いで観察した氷河地形について報告した。西経70度，南緯32度40分に位置するアコンカグア山（標高6,959m）は，標高5,000m前後の定高性のよいアンデス主脈上に突出する安山岩からなる死火山で，登山者には強風の山として知られている。周辺地域は年降水量300-400mm程度（雨期は冬）の乾燥地域で，河川沿いにまとまった植生がみられるほかは植被に乏しいステップとなっている。植生限界は3,800m付近に位置し，標高3,832mのCristo Redentorでは5月から10月までの6ヶ月間，月平均気温が0度C以下となる。降水は太平洋からの西風によってもたらされるため，雪線高度は西に低く東に高い。アコンカグア山付近での雪線高度は4,500m前後である。

Espizua (1993) によると，下オルコネス氷河（アコンカグア南面。現在の氷河末端高度は3,650m）から下流のオルコネス谷～メンドーサ川沿いにおける氷河前進期・氷河末端高度は以下のようなものである。ウスバジャータ期（36万年以前）；1,850m。ブンタ＝デ＝バッカス期（時代不詳）；2,350m。ペニテンテス期（最終氷期前半の亜氷期）；2,500m。オルコネス期（後半の亜氷期最盛期）；2,750m。アルマセネス期（晩氷期）；3,250m。コンフルエンシア期（ネオグラシエーション）；3,300m。乾燥地域であるために，モレーン・アウトウォッシュ段丘ともに保存状態は極めてよ

7/20

い。

コンフルエンシア（合流点の意。標高3,368m）で下オルコネス谷を右手に見送り、オルコネス谷の本流である傾斜の緩いU字谷の上オルコネス谷を約15km北上すると、アコンカグア山北尾根の途中から真西にのびる尾根（標高5,000～5,500m前後）の南面に広がる上オルコネス氷河（現在の氷河末端高度は4,300m）の末端に達する。その左岸にアコンカグア登山のベースとなるプラサ=デ=ムーラス（4,350m）キャンプ場がある。上オルコネス谷の標高3,800m付近には、オルコネス期・アルマセネス期に対比されるラテラルモレーンとターミナルモレーンが分布する。

プラサ=デ=ムーラスから上オルコネス氷河左岸の岩屑に覆われた谷壁斜面を比高にして約1,000m登ると、アコンカグア山北西面の山頂直下に発達する谷頭圏谷の圏谷底（標高5,300m）に着く。雪線高度をはるかに越えた標高にありながら、この圏谷内に氷河は存在しない。この圏谷の北側には、ニド=デ=コンドレスとよばれる分水界上の平坦面（標高5,500m、幅300m長さ500m前後）が存在する。かつては氷食を受けた氷食鈍頂山稜であると考えられるが、平坦面上にはタフォニだらけのトアや風食礫・砂漠ワニスの発達した礫などが分布し、解氷後かなり長期間風化にさらされているものとみられる。アコンカグア山頂も広い平坦面であるが、氷河は存在しない。

このように雪線高度をはるかに越える高度帯に氷河に覆われない緩斜面・平坦面が広く分布するのは、アコンカグア山が乾燥地域に位置する独立峰であるためだともわれる。これらの地形の発達史とそれを規定した環境変遷、および現在の環境下での地形プロセスの種類とその強度については、これまでまったく研究されていない。近い将来、これらの問題を解決するための地形環境調査を是非とも実施しようと考えている。

文献

Espizua, L.E. (1993): Quaternary glaciations in the Rio Mendoza Valley, Argentine Andes. *Quaternary Research*, 40, 150-162.

水野さんの講演要旨は次号掲載の予定です。

・ 7月例会のお知らせ

予定していました演者の都合により、今月の例会は中止としたいと思います。みなさまにはご迷惑をおかけしますが、申し訳ありません。

・ 夏の学校（サマースクール）のお知らせ

本年度の夏の学校は、白山で行うことを決定いたしました。日時、案内者は以下の通りです。

日時：8月18日～20日、18日の夕方までに現地集合としたいと思います。

案内：守屋以智夫氏（金沢大）、島津弘氏（金沢大）、奥野充氏（名古屋大・院）

テーマ：「火山噴出物に基づく噴火史の復元と高山地域の土砂移動」

参加ご希望の方は、7月20日までに事務局までお集書でお知らせください。

集合場所：白山山頂南方，南龍ヶ馬場，南竈山荘前に16:00までに来てください。
交通機関：登山口の別当出合までは自家用車もしくは金沢駅からバスになります。

金沢駅発一別当出合行きのバスは 金沢駅発6:40（出合着8:50）と金沢駅発10:30（出合着13:10）の2本しかありません。時間にご注意ください。

宿泊：小屋泊り（素泊4000円程度），もしくはテント泊となります。

地形図：1/25,000「白山」「加賀市ノ瀬」

オプション：車があれば手取川または金沢周辺の地形学的スポットの案内も・・・

・会費納入のお願い

年度が改まりましたので、今年度の会費納入をお願いいたします。郵便局の振り込みでできます。郵便料金の値上げなど、支出の増加も予想されますが、幾分繰越金もありますので、今年度はとりあえず会費は値上げせず、据え置きたいと思えます。また、口座番号ですが、前号では旧式の番号を載せてしまいまして、ご迷惑をおかけしたと思います。新しい番号は以下の通りです。

寒冷地地形談話会 00100-9-171342 1,500円/年 です

また、お送りいたしました封筒の宛名書きのタックシールに記載されている数字は、会費未納入年度です（919293は91年度，92年度，93年度分が未納入ということです。なお、今年度分は記載してありません）。あわせてご納入ください。3年間以上、会費未納入の場合は来年度以降の会報の発送を停止することもありますので、よろしくお願いいたします（入れ違いとなった場合はご容赦ください）。

また、名簿の作成を行うため、振込用紙にお名前と所属，会報発送先の郵便番号，住所，機関名，電話番号（内線番号を含む），FAX番号を会報が届きますように正確にご記入のうえ、名簿の作成を急ぎたいと思いますので、できるだけ早く（7月20日までに）お振り込みくださるようお願いいたします。また、メールアドレスをお持ちの方は、それもご記入いただければ幸いです。

（例） 青木賢人（東京大・院） 〒113 文京区本郷7-3-1

東京大学大学院理学系研究科地理学専攻

tel. 03-3812-2111(ext. 4580)

e-mail. kent@geogr00.geogr.s.u-toko.ac.jp

・投稿のお願い

昨年度より始まりました「山岳研究気象台」ですが、ご好評をいただいていますので、本年度も引き続き行っていきたいと思います。これまでは、事務局の方からお願いして書いていただいていたのですが、「こんなことを書いてみたい」ということがありましたら、ぜひ、ご投稿ください。事務局へのご批判やご希望でも結構ですので、会員の交流を活発にするためにも、どしどしお寄せください。お待ちしております。

また、「例会でこんな話が聞きたい」というようなご要望や、巡検のお知らせな

どの情報がありましたら、併せてお知らせください。

なお、事務局への連絡は、題名の下に書きました住所、電話番号、FAX、e-mailなどをお使いの上、お願いいたします（できるだけ、お葉書でいただければ幸いです）。

夏の合宿 集合地点

1: 25,000 地形図 NJ-53-12-4-3
はくさん (金沢4号-3)

